

リニア中央新幹線 名古屋市環境アセス公聴会 (1月18日)

JR東海が欠席・・・名古屋市の公聴会では初めて

1月18日、リニア中央新幹線についての名古屋市環境影響評価（アセス）条例に基づく公聴会が開かれました。

公述人7人全員が事業計画に反対を表明

公述人7人全員がリニアの事業計画に反対を表明し、それぞれ意見を述べました。

公聴会には通常、事業者が参加しますがJR東海は参加を拒否しました。市の公聴会で事業当事者が参加しないのは初めてです。公聴会への参加すら拒むJR東海には環境に配慮する姿勢がないのでしょうか。

環境への影響を心配

このうち、くれまつ順子さんは、名古屋市をめざす”低炭素都市”、”生物多様性”、”水の輪復活”という環境都市像に照らして、リニア新幹線計画によって、環境破壊、環境にやさしくないと指摘し、在来新幹線の3倍以上の電力を消費するリニア新幹線。3・11以後原発ゼロへ、自然エネルギーに転換する道に踏み出す決意をしたはず。エネルギーを浪費するリニア新幹線を選ぶのか、などの意見を述べました。



上部の地権者への補償はないということだが、財産権が脅かされる心配がある」ことを指摘しました。たとえば、不動産取引時に交わされる重要事項説明書（ちなみに）。将来、不動産購入を考えている、あるいは長く住んでいたが売却することになった。このような場合において、リニアが建設された場合、どうなるかについて、（一般財団法人）不動産適正取引推進機構に問い合わせた結果を示しながら、「実際に走らないとわからない」ということでは騒音や振動、地盤沈下の心配があり、財産権が不動産取引の際、正常な価格での取引ができない影響が出ると想定されると指摘し、もっと国民的な議論が必要、と述べました。

地下深くても財産権に不安

また、藤井ひろきさんは、10年前にメーカーの住宅営業社員だった経験から、ルートの大半を地下40mより深い大深度トンネルを走行する計画について、「JR東海の見解は、用地は現地ですら測量してから確定。大深度は原則補償なしということで、リニア路線建設地



名古屋の未来・まちづくり リニア頼みでいいの？

リニア新幹線計画と名古屋のまちづくりを考える学習交流会

日時 2月8日(土)午後1時30分～4時
会場 名古屋国際センター 4階展示室

(地下鉄桜通線「国際センター」2番出口から直結)

◇講演 ここがおかしい リニア中央新幹線計画の問題点
日本共産党政策委員会事務局長 寺沢亜志也

◇報告 名古屋のまちづくり構想と
リニア新幹線
日本共産党名古屋市議員団

◇あいさつ 佐々木憲昭衆議院議員

◇会場からの発言・質問



日本共産党 名古屋市議団 **市政懇談会**

- ◆日時 2014年2月13日(木)
午後6時30分～8時30分
- ◆会場 名古屋都市センター
14階 第1・第3会議室
(地下鉄・JR・名鉄「金山」下車)
- ◆内容 2月定例会 ・ 新年度予算など